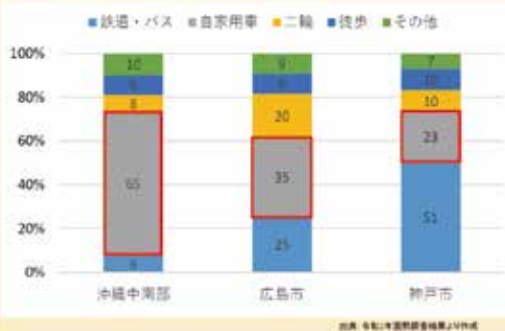


# 沖縄交通リ・デザイン 官民共同宣言

～ 自家用車中心のライフスタイルからの転換に向けた 企業・個人の行動変容の促進について～

## 交通分担率↓

通勤通学時の主な交通手段（公共交通分担率）



## 移動速度と損失時間↓

平日朝夕旅行速度（混雑時旅行速度）



インタビュー・意見交換会実施箇所

沖縄では、通勤、通学、買い物などの自家用車中心のライフスタイルがこれまでの成長を支えてきた一方で、慢性的な交通渋滞や依然として高い運輸部門のCO<sub>2</sub>排出量など、暮らしや企業活動を阻害する要因にもなりつつあります。沖縄では、過度な車依存による交通渋滞で生産年齢人口の約6%に及ぶ労働力が失われており、日常生活やビジネス、観光などさまざまな面の質の低下が懸念されています。こうしたライフスタイルからの脱却を図るため、昨年度の調査検討事業において、需要サイド（住民や企業等）によるライフスタイルの転換に向けた行動変容と供給サイド（交通事業者等）による

## 沖縄交通リ・デザインとは？

公共交通の利便性の向上に向けたアクションを一体で進めていくこととなりました。

## 住民、企業向けパブリックインボルブメントの実施

これを受け、上記のアクションを官民が連携して進める体制を構築するとともに、行動変容を県民全体の取組とするための住民・企業向けパブリックインボルブメントを展開し、この取組を通じ、公共交通機関の利用にとどまらず、リモート化や職住近接、更には省エネ化など、多様な手段を積極的に取り入れた、移動の質の向上や持続可能なライフスタイルへの転換に向けた行動変容を促すこと、交通ネットワークの構築について議論・共有すること

を目的とします。

昨年度は、本島中南部を中心に住民や観光客に対するオープンハウスやワークショップを行い、得られた声をまとめました。（左記二次元コード参照）

内閣府沖縄総合事務局・パブリックインボルブメントの実施



ショッピングモールでのインタビュー



## 第1回リ・デザイン県民運動推進会議

令和6年8月21日に開催された「第1回リ・デザイン県民運動推進会議」では、様々な分野から構成された委員の皆様が①沖縄交通・デザイン県民運動推進会議の体制・進め方について②マーケットデザインチームの運営方針について③今後の調査事業の進め方、社会課題の解決や企業活動に貢献できる交通の形や必要なアクションを議論・共有しました。



第1回リ・デザイン県民運動推進会議の様子

## 官民共同宣言

第1回リ・デザイン県民運動推進会議を踏まえ、経済界、交通・観光関係者、

行政等が一体となって「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のり・デザインに取り組み続けるべく、「官民共同宣言」を実施しました。玉城知事や金城商工会議所連合会会長といった沖縄の官民を代表する方々がそれぞれり・デザインへの意気込みを述べ、沖縄の交通課題について取り組むことを宣言しました。



官民共同宣言を実施した皆様

お問合せ先

運輸部 企画室

☎098-866-1812

## 沖縄交通・デザイン官民共同宣言

～高付加価値経済と持続的な発展に貢献する交通を目指して～

交通や都市は、人々の暮らしや余暇、地域の経済活動を支え、持続可能な発展の基盤となるものです。これまで、沖縄では、自家用車を前提としたライフスタイルとともに、経済成長を実現してきました。しかしながら、慢性的な交通渋滞により、那覇市内の旅行速度は日本ワーストクラスであり、沖縄県全体では労働力に換算すると生産年齢人口の約6%相当が失われています。また、著しく低い公共交通の分担率に伴う地球や地域の環境の悪化、二次交通の利便性の低さによる観光客の沖縄離れなど、このままでは、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながることも懸念されます。

このような認識のもと、わたしたちは、沖縄に暮らす住民はもとより、経済・金融・エネルギー・観光・教育・交通・都市といった多様な主体も一体となって、「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のり・デザイン（再構築）に取り組み続けることをここに宣言します。

- 一、沖縄の将来は、わたしたち沖縄に住まう人々のもの。そのことを強く自覚し、社会の変化にも対応しながら、住む人と訪れる人の誰もが満たされ、世界に開かれた「沖縄のありたい姿」を、わたしたちみんなで構想し、描いていきます。
- 一、移動・行動の変容を通じて人々のライフスタイルを転換し、より健康的で充実した生活を実現するとともに、持続可能なビジネスを創出し、労働生産性を高め、暮らしとビジネスの好循環の実現に向け行動します。まずは、令和6年9月の沖縄バス無料デーを端緒として、わたしたちの各々が率先して、在宅勤務やノーマイカー通勤等の自家用車中心の生活からの脱却に向けた行動に継続して取り組みます。沖縄に住むわたしたちがオーナーシップと決意を持って、沖縄らしい自由でのびのびとした豊かな生き方を自ら実践し、訪れる人々にもその価値を広めていきます。
- 一、まちづくりと一体となった交通拠点の整備や新たな公共交通システムの導入の取組と併せて、デジタル技術の活用、移動のあり方の再編、事業者や分野を超えた連携も含めて、利用者の目線に立って、今ある交通リソースのポテンシャルを最大限に引き出します。ライフスタイルの転換と持続可能なビジネスの創出の好循環を支え、沖縄の高付加価値経済の発展を促し、人々の暮らしに根差した社会共通資本として、「誰でも、いつでも、どこからどこへでも」交通の空白やストレスなく、効率的に移動できる環境の創出に向け取り組みます